

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900054		
法人名	株式会社 よろこび		
事業所名	グループホーム よろこび	2ユニット	
所在地	福岡県田川郡大任町大字大行事4125-1		
自己評価作成日	平成29年2月6日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年2月24日	評価結果確定日	平成29年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田園に囲まれた静かな地域で、季節の移り変わりが目に見える環境にあります。入所時より疾患により身体機能が低下し、車椅子生活を余儀なくされている方が多いですが、個別の機能訓練により、徐々に機能が向上し、全員の方が入所時より出来る事が増えています。お風呂はリフトを設置しており、身体機能が低下している方でも、ゆっくり湯船に浸かることができ、とても喜んでもらっています。家族との関係性も良好で、日頃より面会も多く、行事には多くの方に参加して頂いています。皆さんから「良かった」と思ってもらえるような支援に取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内3か所に基本理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。基本理念を毎朝朝礼時に勤務者全員で唱和し理念に基づいたケアを行うように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加したり、当施設で行う行事には声掛けをし外部より参加して頂いている。散歩中に近隣の方と挨拶を交わしたり庭になっている果物を頂くこともあり、少しずつ交流の機会が増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時にケアの報告を行っている。又地域の行事に参加したり、当施設の行事に参加して頂いたり、商店や理容院などへ行き認知症の人に対する理解を深めてもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施。サービスの内容を報告し、意見や要望を伺い、日々のサービス向上に繋がる様にしている。ご家族様の参加も多く、意見も活発にある為、有意義な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では役場担当者や包括職員も参加し意見交換している。すぐに相談ができる関係性がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行わない方針だが、11月に日中施錠をした職員がいたため当事者には個別で再教育し、他職員にも職場会議において再度教育を行い、再発防止に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づいた内部研修を行い、理解と共有を図っている。日頃より、入居者の人権を尊重した対応を心掛け、虐待が発生しない環境作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで制度を活用した例はないが、今後必要となった時には迅速に対応できるように、制度に関する学習の機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、管理者が十分な説明を行い、理解・納得をして頂いている。入居後も不明な点があれば、相談に応じ説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、意見や要望があった際には、意向に沿うよう努めている。ご家族様には運営推進会議や来所時等でも意見・要望を聞いている。又、役場や広域連合も相談窓口であることを案内している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は毎月の職員会議で聴取したり、日々管理者が職員より意見を聞くようにしている。必要があれば臨時職員会議を開いている。必要に応じ毎月の管理者会議時や即時に代表者に相談報告し改善努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、職員と面談を行っている。半年に一度、勤務評価を行っている。それに基づき、勤務状況の把握、就労条件の改善に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢での制限は行っていない。希望する研修や資格取得に向けての支援も行っている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼時に、毎日基本理念を唱和し人権尊重、倫理規範の保持を意識するように努めている。内部研修でも権利擁護、虐待防止について学習している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月行っている。職員一人ひとりの技術・知識の違いがある為、個々に応じた外部研修に積極的に参加している。外部研修後は毎月職員会議内で他職員に伝達する機会を作っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川地区介護サービス事業所協議会に積極的に参加し、情報交換を行う機会を得ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や病院に出向き、本人に会い気持ちを聞いたり、家族や関係者に様子を聞き情報を集めている。可能であれば入居前に本人に施設に見学に来てもらっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族様と話をする機会を多く持ち、信頼関係を築くよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より本人、家族、職員が話し合い、ニーズに基づいた支援内容を検討し、サービスの提供ができるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話を大切にし、何を思い、感じているかを考えながら接している。何でも言える関係性を築けるよう努力している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂いたり、病院受診と一緒に付き添うなど、一緒にご本人を支えていくようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人が来られたり、馴染みの商店や美容院に出かけたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮しトラブルにならないように配席には気を遣っている。行事やレクなどを行う際は、状況に合わせて職員が間に入りながら関係づくりに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族とは、必要に応じ相談に乗り情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、本人の思いや気持ちを汲み取る様に努めている。又家族とも相談し、その人らしい生活ができるように努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より生活歴を本人・家族・関係者等から聞き取りを行い情報収集し、入居に至るまでの経過を把握するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の望む生活を尊重し、日々少しでも変化や気づきがあれば記録し、申し送り等で職員間の情報共有を図っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議にて課題を話し合っている。計画に沿ったモニタリングを介護職員も毎月行っている。又面会時に家族からも意向を伺ったり、医療関係者からのアドバイスなどを反映させ介護計画を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの記録を行うよう努力している。日々、状況の変化を職員間で情報共有し、計画見直しに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況の変化を把握し、職員でその都度話し合いをし、その時々に必要なケアを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や地域の商店等に行くなど外出する機会を作っている。又当施設の行事に参加・協力頂き、生活の様子を見て頂く機会がある。笑顔が多くなる様支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が入居前にかかっていた病院に現在も受診している。受診時に心身状態の報告を行い、適切な医療を受けられるよう主治医と連携が行えている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護による体調管理を行っている。緊急時や相談時には常時対応してもらっている。相談しやすい関係であり、連携が取れている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者に早急に情報提供が行えるよう、入院時は家族と共に病院に行き、家族と共に主治医・担当看護師・ソーシャルワーカー等と面談している。早期退院と円滑な受入が行えるよう、頻りに訪問したり、電話による状況報告を受けたりしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についての希望を本人・家族に伺っている。体調変化時にはその都度、家族の意向を伺っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修を行っている。AEDの取り扱いについては外部講師を呼び研修を行っている。救命講習は順次研修に行くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	民生委員や自治会長、役場担当者等と避難場所や方法の情報共有し協力が得られるようにしている。全員での外出する機会に避難誘導訓練を併せて行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念のもとに人権やプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。日頃より個々に応じたその時々言葉かけなど職員間で話し合い、対応をしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持ち、個々の思いを理解するように努めている。言葉が上手に出ない方には、「はい、いいえ」で応えられるよう問いかけたり、表情を見て思いを知るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や心身の状態に応じ、その時々したいことを尋ね、希望に沿えるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常のメリハリをつけるために夜間は寝間着に着替えていただいている。自分で服を選ぶ方は自分で選んでいる。自分で選べない方はTPOに合わせた洋服に着替えている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを一緒に考え、メニューに取り入れている。片付けなど出来る方には協力してもらっている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事量や形態に配慮している。バランスの良い食事となうよう献立を作成し、使用した食材を記録し同ようなメニューや食材を使用しないようにしている。水分量のチェックも行い管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。訪問歯科やかかりつけの歯科医に個々に応じたケアのアドバイスを受け実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	多くの方が入居時、昼夜おむつ使用していたが排泄チェック表により排泄パターンを把握し座位保持できる方はトイレ誘導を行うことで、排泄がトイレで行える方が増えてきている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事提供を心掛けている。水分量も配慮している。便秘傾向の方は主治医や訪問看護師と相談し下剤の調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね月・水・金の週3回入浴しているが、本人の希望により時間や別日に入浴している。現在6名がリフト浴を行っており、全員がゆっくり湯船に浸かることが出来ている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、居室やソファで休息できるようにしている。夜間不眠の場合は、日中の過ごし方を、朝礼時に検討し、支援に取り入れている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳をいつでも確認できるように事務所に設置している。薬の追加や変更時は申し送り簿に記載し情報共有している。薬チェックリストを活用し、投薬間違いがないように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好を考慮し、状態に応じた活動を行うようにしている。家族の協力も多く、楽しく過ごせるように家族も一緒に考え、支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食をする機会を作っている。個別で買い物に行きたい、散歩に行きたい等の要望がある時は、その都度職員と一緒に出掛けている。又、家族の協力で外出や外泊をされる方もいます。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己所持希望の方は、自己にて所持し、病院代や買い物の支払いを自分でしていただくようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2名は携帯電話を所持しており、かけることはできないが受けることは出来ている。電話をかけてほしいと希望があった時は、職員が電話を掛け、お話をしてもらっている。本人宛の手紙は直接本人に渡したり、代読している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の方が多いため、常に整理整頓を心掛けている。オープンキッチンからはフロアが見渡せ、食事を作る音やおいで生活感を感じることが出来る。毎月季節に応じた掲示物を入居者と一緒に作成し掲示している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの食堂やテレビ前のソファで自由に過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族から意向を聞き、馴染みの物を持ち込んでいただくようお願いしている。本人・家族の希望で模様替えをすることもある。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の部屋扉には手作りの表札をつけ、トイレなども分かるように表示している。車椅子自走する方がいるため、動線上には物を置かないようにしている。		